

編集後記

この『洞天福地研究』という雑誌は、平成 21 ～ 23 年度科学研究費補助金基盤研究 (B)「中国道教における山岳信仰と宗教施設のネットワークに関する総合的調査と研究」で行なった調査や研究を発表する場として計画されました。

プロジェクトの詳細については、巻頭の土屋論文をご覧になって欲しいのですが、個人的に一言付け加えるならば、この研究の新しさは、専門とする時代や分野を異にする複数の研究者が集まり、洞天福地を対象に共同でフィールドワークを行なうことで、道教を新たな視点から捉え直そうとする点にあると思います。

道教は一般社会のみならず、中国学の研究者からも「解りづらい」という印象が持たれているようです。もちろんそれには相応の理由があり、道教が様々な点において特殊性を有する思想・宗教であることも確かなのですが、一方で例えばコアの部分には「山岳信仰」という、日本人にとっても極めて馴染みやすい要素を持っているようです。私自身は本プロジェクトによって、道教のこうした従来注目されて来なかった側面にも光を当てることができるのではないか、と考えています。

なお本誌は、写真や図版などを多く掲載しました。それによって、文章だけではなかなか解らない「現場」の雰囲気や、読者と少しでも共有するとともに、「普通の学術誌より面白い誌面」を作ることを目指しました。

私は今回、編集委員として主に DTP を担当いたしました。大学の授業や会議の合間を縫って作成した素人組版で、色々と間違いもあろうかと思いますが、お気づきの点などあればご指摘ください。

(文責・山下一夫)